

当城の祈禱所なり。古に龍と出り中に陰雨
の祈禱を——以冥験の事あり。その後散水を
加ゆると云に、是は城内におゐて大般若を
精讀せし又日を定日とす。正月に日洒田中
のち、新年始の祝儀に宅地を龍岩寺に奉
納。月門を不用。又羽源記九と云。日洒田乃
湊は密地を建立——該識所とお定め。常任
を退し。說法教化——て自他宗の号稱を難
破——正邪の二刃を并（て）中乃の一刃を立
たせんとす。めまゝ密宗の碩徳流と合教を倣
ふ。僧侶を撰ひ八宗諸方の法門を學ばれり。
その後志村伊豆小洒田をありてより、後は
まゝ云宗は破す。院も——つた。性寺ハ天竺宗
よみて寛文年中とあり——とりやと云く寺
僧の語は、性寺ハ龍岩寺の末寺なりし
といふ。今ハいふな。

一 鷄足山天正寺 禪宗

東禪寺分ちにあり。古に領有十七石。又斗五米。内
十一石五斗。上安田村六石五斗。横代村五石。下
開山より江代目。是給失。是け外海晏寺 禪宗